

2024（令和6）年度ペットフード産業実態調査の結果について

一般社団法人 ペットフード協会

ペットフードメーカーなど、99社（正会員53社、賛助会員46社、2025年8月1日現在）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉 博充】は、2024（令和6）年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）ペットフード産業実態調査を行い、その結果が以下の通りまとめられました。詳細に関しては別紙資料をご参照願います。

調査の結果、ペットフード産業の出荷総額は 459,423 百万円で、対前年度比は105.6%と、9年連続での増加となりました。

出荷量は、567,724 トンで、対前年度比 99.0 %と3年連続で減少しました。

会員各社は 継続した 付加価値の高い商品開発 及び 値上げの影響により昨年に引き続き 出荷総額では 前年以上の成長をいたしました。

主要点は以下の通りです。

1. 出荷金額：用途別

犬用の出荷額は対前年度比 104.0%と増加し、猫用の出荷額も対前年度比 107.1%と増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用も出荷額は、対前年度比 100.5%と減少しました。

2. 出荷金額：製品タイプ別

犬用は全体の 55%を占めるドライタイプの出荷額は対前年度比 105.8%と増加しました。

全体の 14%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比 99.6%と減少しました。

猫用は全体の 47%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比 105.6%と増加しました。

全体の 46%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比 107.0%と増加しました。

3. 出荷数量：国内生産品と輸入品別

国内生産品の出荷量は対前年度比 97.1%と減少しました。輸入品の出荷量は対前年度比 101.6%と増加しました。

4. 出荷数量：用途別

犬用の出荷量は対前年度比 97.7%と 9 年連続 減少し続けている。猫用の出荷量は昨年
に続き 100.3%とほぼ 横這いでした。

犬・猫用を除く、その他のペット用の出荷量は対前年度比 95.9%と減少した。

5. 出荷数量：製品タイプ別

犬用は全体の 656%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 98.4%と昨年に続き減
少しました。全体の 12%を占めるウェットタイプの出荷量も対前年度比 94.0%と減少
しました。

猫用は全体の 62%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 97.0%と減少しました。
全体の 35%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 105.3%と増加しました。

6. 出荷数量：国内生産品 用途別

国内生産犬用の出荷量は対前年度比 96.9%と昨年に続き減少しました。

国内生産猫用の出荷量は対前年度比 97.4%と減少しました。

国内生産のペットフード合計は対前年度比 99.4%と減少しました。

7. 出荷数量：輸入品

輸入品犬用の出荷量は対前年度比 98.4%と昨年に続き減少、輸入品猫用の出荷量は
対前年度比 104.3%と増加しました。

輸入品のペットフード合計は対前年度比 101.6%と 増加しました。

8. 国別輸入数量

今年度、国別輸入量での最大の輸入国はタイ、アメリカ、オーストラリアの順で、昨年
と同様でした。

輸入国増減率では、タイ、アメリカ、韓国、オーストリア、イギリス、ポーランドニュ
ージーランド[※]、ベトナム、インドネシア、ドイツ、イタリアと多くの国の輸入量が増
加しました。

一方、オーストラリア、フランス、チェコは 昨年に引き続いて 輸入量は減少しまし
た。オランダ、カナダ、台湾からの輸入量も減少しました。

以上